

『紡ぐ』

2020.11. / 第13号

発行 教育相談室「あした塾」

選手は指導者の器の範囲でしか育たない



(野村克也さん)

「選手は指導者の器の範囲でしか育たない。これは、元プロ野球選手・監督だった野村克也さんの言葉です。**名言**です。10数年前、週刊誌のインタビュー記事を目にしました。おどろき目にした。この言葉はスポーツ選手だけの話ではありません。会社の上司、役場の上司、学校の先生、そして親みんが通じる言葉です。

「部下がバツとしない」。では、部下の資質がないのか。「選手が全く伸びない」。では、選手に才能がないのか。「授業がわがやない。成績があまり」。では、子どもが悪いのか。

指導者は(上に立つ者は、上司は、先生は、親は)、自分の器はどの程度か知ることが必要です。常に自分の器を大きくする努力を続けたいといいたいんです。(T)

「紡ぐアンケート」から

わくわくする水

「所当局や議員の皆さんに頑張ってもらいたい」という問いに「広報にいくつかのテーマを3年後と5年後などの議員さんの夢を掲載してほしい。市民アンケートだけでなく、議員さんの声も聞かせたい。『わくわく(する)水』のテーマで。所を歩くと楽しくなるというふうな他の市所とちがうことを楽しめ。 (能登所や柳田、松波、戸前や輪屋など。いまだに「合併なければ良かった」といふ言葉を聞きます。」(略)

「紡ぐアンケート」は所民の皆さん、正長、町内会長、議員の皆さんの3種類で行っています。議員さんは3名しか返ってきていません。これだけでもありがたいんです。(T)

紡ぐアンケートについて

これまで回答を寄せていただいた方たちに感謝しています。このあとも寄せてください。

回答の中身については可能な限り『紡ぐ』に掲載させていただきますし、内容をまとめて所や議員の皆さんに伝えたいと思っています。



(能登大仏から)

「『紡ぐ』の存在は大きい」といふ言葉もありました。ありがとうございます。

また「里山が荒れいている。ほんとに...」という回答も多くありました。

(後日掲載)

こもろ水 かけがえない 故郷



(鹿波白山神社前からの風景)

自然豊かな穴水町。いくつもの
素晴らしい風景を見ることのでき

ます。そこに住む私たちに、当たり前すぎる日常で、その価値に気づいていないことが多
いからです。“新ぐアンケート”で、“こもろ水、こもろ水の財産ではないですか!?”とい
うことでの薦めスポットを紹介しました。

その一つが、鹿波白山神社前からの風景です。鹿波白山神社は、現在、工事中の鹿波バ
イパス沿いにあります。眼下には鹿波の集落。そして、ごく最近に能登島があります。晴れた
日、ゆっくり眺めておけばどうでしょう? (Yさんおすすめ)



(能登ワイン・ブドウ畑)

“能登ワイン展望台から見るワイン畑のパノラマは絶景
です。”とお薦めの回答が。平日の午後出かけまし
た。残念なだけ、どんな理由からか展望台にはカ
ギがかけられていました。展望台からの“絶景”は見る
ことのできませんでしたが、地上からの風景もまた、存
在感のある素晴らしいものでした。“5年前の中学3年
生は、来年度成人式を迎えます。自ら収穫したブドウ
で造った、ワインを味わう時の新成人の
気持ちを想って今からワクワクはせんか。”とありました。
ところで、観光客も数組来ていました。展望台、なんと
ありませんか。(Oさんおすすめ)

山粧ふ、(おそろ)

“山粧ふ、秋の季節です穴水
町のあちこちの山も深まり秋
の風景になってきています。

「山粧ふ生きとしけるもののため」
(高橋 将夫)

「色絵具ぶちまけやう 秋の山」
(柴田 靖子)



(藤巻 地内)